



**D. 研修の内容** ※1～5日目通じて、1時間～1時間半おきに、5～10分の休憩時間をとります。

**1日目 座学**

※休憩時間明けは、その直前までに話した内容の要点をかいつまんで話します。

※(2)と(3)の案内は、適宜気分転換を兼ねて、(4)座学の合間に挟みます。

(1)紹介と挨拶 他の職員への紹介の後、手短に各受講者に挨拶(自己紹介)をしてもらいます。

(2)館内の案内 次の場所実際に行って、行き方や電灯スイッチの場所などを説明します。

・更衣室・休憩場所・トイレなど(直接業務に関係しない場所) ・研修をする場所

(3)学内の案内: 次の場所実際に行って、行き方の説明をします。

・他部署(庶務課や学生課など) ・学食(生協) ・学舎 ・グラウンド ・駐車場 . . . etc.

**(4)座学**

①テキスト等を配付し、配付物の過不足などを確認します。②業務内容全体の説明をします。

③目録の目的が利用者<sup>に</sup>に所蔵資料の検索手段を提供するであることを説明します。

④目録の手段、つまり作業内容がタイトルなどの書誌的事項の記録をとることであることを説明します。(正確には、書誌的事項の記録とアクセスポイントの設定、ですが略します。)

⑤テキストに沿って、図書館業務や目録業務についての、基本的な知識を説明します。

説明事項: 図書館・目録・NACSIS-CAT・書誌・タグ・書誌階層・目録規則がなぜ必要か

※時間があれば、新着図書<sup>を</sup>作業手順表通りに行き、受講者にはローカル取込のみしてもらい、翌日はまず自館 OPAC を検索します。自分の仕事の結果が反映される場所を見せるためです。

**2日目 演習(基本)1**

(1)1日目の復習 1日目の座学の要点を、最初の1時間で改めて説明します。

(2)コンピュータの起動方法と終了方法、目録用ソフトウェアの起動方法と終了方法を教えます。

(2)-1 右記の①⑥だけを繰り返す

慣れたら→ (2)-2 右記の①②⑤⑥を繰り返す

慣れたら→ (2)-3 右記の①②③④⑤⑥を繰り返す

①コンピューター本体の起動

②ログイン

③目録業務用ソフトウェアの起動

⑥

”

の終了

④

”

の終了

(3)基本操作の習得 ①文字入力(ローマ字入力) ②文字入力の取消 ③コマンド入力の取消

(4)検索演習 コンピュータの操作と目録業務用ソフトウェアでの検索に慣れてもらいます。

①まずは、口頭で検索条件「TITLE=神戸」などを適当に言って、各受講者に検索してもらいます。

30分置きに数分の小休憩をはさみながら、何セットか演習を繰り返します。

②次に、現物を見ての検索演習をします。実際に所蔵登録などを済ませてある図書を書架からとってきて、それを検索してもらいます。合わせて、所蔵レコードを見て(リンク検索)の CLN の確認などをしてもらいます。又検索のコツを1つづつ教えます。

①に同じく、30分置きに数分の小休憩をはさみながら、何セットか演習を繰り返します。

**3日目 演習(基本)2**

(1)2日目の復習

(2)書誌の同定 ①説明の後、受講者には②の演習を繰り返し演習してもらいます。

①説明 書誌同定の手順表にそって、講師が実際に「書誌検索→同定」の作業を行いながら、受講者に同定のやり方を説明します。

②演習 所蔵登録済みの図書を書架からとってきて、受講者にそれを検索してもらいます。

1冊ごとに、NACSIS-CAT 検索→同定とすずめ、同定できた書誌の自館所蔵レコードを見て、その CLN が現物の CLN ラベルと合っていれば正解とします。CLN が食い違う場合は、講師に声をかけてもらい、講師が確認し、個別に説明や指導をします。

**4日目 演習(実習)1 ~ 5日目 演習(実習)2**

(1)2~3日目の復習 (最初の1時間位)

(2)実際の業務に沿った演習 実際の作業手順表に沿って、1工程づつ説明します。

説明→講師実演→受講者演習の順に進めます。

**6日目~**

目録作業は、個々人(=元受講者)に任せます。又、同定が難しい資料や、機器の動作不良の場合などには、講師に声を掛けるよう伝えておきます。

**D. 研修の内容** 休憩

研修中の休憩は、集中力持続と能率向上のためにとります。そのため、受講者がだれる前に休憩を挟みます。

**1日目 座学** 休憩明け

休憩明けに、そこまでの座学の内容の要点を繰り返すのは、記憶定着のためです。教える側の心構えとして、一度聞いて全て覚えられるほどの人材はいないもの、と考えます。

**1日目 座学** (3)学内の案内

学生=お客さんの顔が見えないと仕事への意欲や意識がそがれますので、学生さんの邪魔にならない範囲で、受講者に学内全体を見て回ってもらいます。

※意欲増進のためです。ここ(1日目)でのローカル取込は、講師が横から、どこに何を入力するのか手取り足取り指示しながら、受講者にやってもらいます。

**2日目 演習(基本)1** (3)基本操作②③

正しいやり方だけ学ぶと間違えたときに自力で元に戻れません。

**2日目 演習(基本)1** (4)検索演習

インターネットの普及で、検索自体には慣れている方がほとんどですので、サイト検索との相違・自館システム特有の操作・NACSIS-CAT 特有の検索キー等を受講者に習得してもらいます。

又最初は、岩波新書等の書誌事項や書誌階層の分かりやすい図書で演習します。

**2日目 演習(基本)1** 休憩の取り方

検索演習での休憩を30分置きと短くするのは、演習内容が単調だからです。単調な練習の繰り返しは精神的に苦痛です。技量習得という目的からみてもマイナスですから時間を短めに区切ります。

**3日目 演習(基本)2~ 5日目 演習(実習)2**

2日目の検索演習と同じく、最初は岩波新書等の書誌事項や書誌階層の分かりやすい図書で練習します。

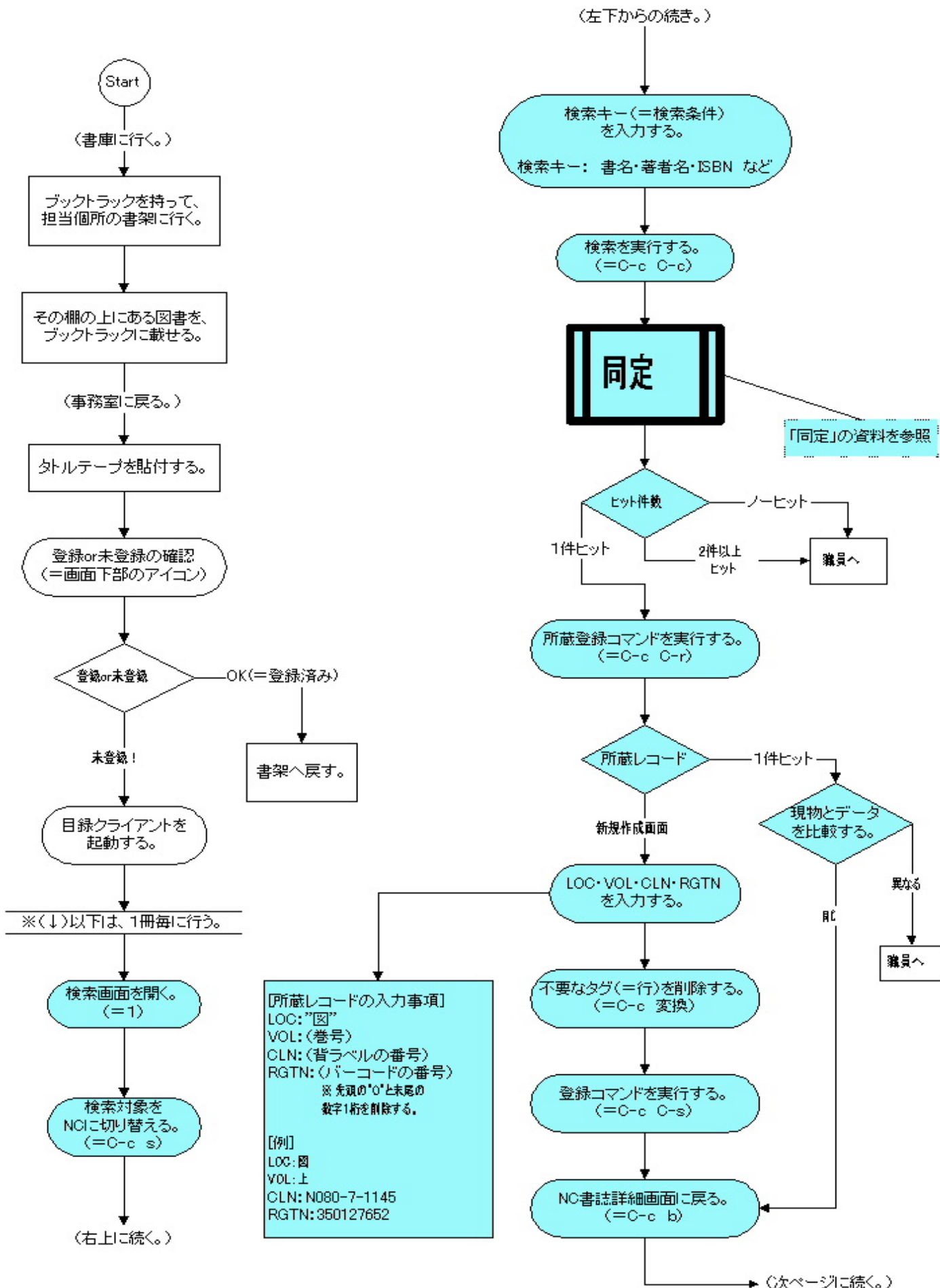
慣れてきたら、英語など外国語の図書や書誌事項の取りにくいものなど、徐々に難易度をあげながら演習をすすめます。

**E. 事後評価**

どの受講者の方も、2週間目の実務開始時点で大筋はきちんと習得して下さっていました。最初の1カ月は多少の操作ミスや記憶違いがありましたが、それも徐々に減り、2カ月目以降は、重複レコード等の処理が複雑になる例を除いて、講師に声がかかることはほとんどありませんでした。この研修はいわば人材の促成栽培ですので、充分許容範囲かと思っています。

参考資料① 目録業務の作業手順表(抜粋)

- ・国の雇用対策事業による、遡及入力時に使用したものです。(2002～2004年の3年間、1期半年で各4人づつ、を計6期、計24人)
- ・元はWindowsのソフトVISIOにて作成。下記はバックアップ用のjpegファイルを印刷したため、文字の配置などが若干ズレています。
- ・四角囲いが手作業、楕円囲いがコンピュータ上での作業、色つきの楕円囲いがコンピュータ上でのキー操作あり、菱形が分岐、としています。



【 目 録 】

2002. 10. 28.

-----  
【目次】

◎概説

- ・ 目 録
- ・ 目録規則
- ・ 書誌, 典拠
- ・ 書誌ユーティリティについて
- ・ NACSIS-CAT とローカル目録について
- ・ 各データタイプ
  - NACSIS-CAT
  - ローカル目録
  - 検索時の動作について
- ・ 目録作業の目的

◎用語

ヒット・同定・情報源・書誌的事項・アクセスポイント・レコード。

◎タグ一覧 (書誌・典拠)

- ・ 書誌
  - NC 書誌 (=BOOK)

-----  
【概説】  
-----

[目録]

- ・ 目録とは
  - 検索手段の提供. (=利用者が必要とする“アクセスポイント”の管理と設定)
  - 蔵書管理. (=自館所蔵資料の物品管理.)

-----  
[目録規則]

- ・ 目録規則とは
  
- ・ 適用する目録規則
  - 日本目録規則 87年改訂版 (略称=NCR87R).
  - 英米目録規則 第2版 (略称=AACR2).
  - コーディングマニュアル (NACSIS-CAT).
  - 目録情報の基準第4版 ( " ").

-----  
[書誌, 典拠]

- ・ 書誌とは
  - “書誌的事項”を記録したもの.
- ・ 書誌構造 (=書誌階層) について
  - タイトル単位, 出版物理単位, 物理単位, 親書誌, etc.

参考資料③ 書誌同定の手順(抜粋)

A 4 で 1 枚。

=====  
[同定：図書書誌]

2002. 05. 21.  
=====

1：資料全体を参照し、以下の“書誌的事項”について、“同定”作業を行う。

- 「現物の資料形態と GMD フィールド・SMD フィールド」 を比較する。（\*コード表参照）
- 「現物の資料形態と REPRO フィールド」 を比較する。（\*コード表参照）

-----  
2：『タイトル紙・タイトル紙裏・前付のタイトル紙・奥付・背・表紙』の順に、以下の“書誌的事項”について、“同定”作業を行う。

- 「タイトル と TR フィールド・VT フィールド」 を比較する。（\*“VT”はコード表参照）
- 「責任表示 と TR フィールド・AL フィールド」 を比較する。

参考資料④ 書誌同定用の目録コード一覧表(抜粋)

A 4 で 1 枚。

=====  
【目録レコード 『コード表』 一覧】 2002. 10. 29.  
=====

[資料種別 (GMD & SMD)]

GMD (説明)                      SMD    = 媒体の名称

空値                                      空値    = 図書(※)

~~~~~                      (中略)    ~~~~~

=====  
[主な出版国コード (CNTRY)]

コード                      国名・地域名                      (英語表記)

|    |          |                  |
|----|----------|------------------|
| ja | 日本       | (Japan)          |
| us | アメリカ合衆国  | (U. S. a.)       |
| uk | イギリス     | (United Kingdom) |
| gw | ドイツ連邦共和国 | (Germany West)   |
| cc | 中華人民共和国  | (China)          |
| hk | 香港       | (HongKong)       |
| ch | 台湾       | (Taiwan)         |